

# 木材を無駄にしないための集成材事業



県北木材協同組合 西那須野工場  
栃木県那須塩原市



羽越木材協同組合  
新潟県村上市



近年、ハウスメーカーやプレカット工場の要望などにより、新たに集成材事業に進出する国産材製材工場が見受けられます。

※参考資料

H22.1.13 林政ニュース第380号

H27.2.24 関東地区広域原木流通協議会

関東地区広域流通構想 p7

R6.4.24 林政ニュース第723号

トーセンでも上記工場で集成材事業に取り組んでいますが、他の工場とは若干アプローチが異なっています(※)。

2度目の転機は、2006年のKD加工センターへのFJラインの導入、09年の新潟北部木材加工協同組合の設立、11年の県北木材協同組合西那須野工場の稼働による集成材生産への参入だ。これにより製材端材の有効活用、丸太のB材利用が可能になり、製材、丸太の歩留まりが向上した。

縦継ぎ材は見た目が良くないと一般流通では敬遠されたが、寸法精度の高さがハウスメーカーに受け入れられ、順調に生産を拡大した。一方、歩留まりが30%程度の集成材は、国産材では価格競争力が出せないとされたなか、主製品ではなく、あくまでも端材の付加価値利用として生産することで、事業を軌道に乗せることができた。

R5.8.10日刊木材新聞より

製材端材や、やや曲がっている丸太などを有効利用することで、製材の付加価値を高め、かつ集成材の価値も相乗効果で高めるアプローチです。丸太歩留を向上させ、森林資源フル活用を推進するための逆転の発想による集成材進出と言えるかもしれません。

